

「職場を安全、安心に」生産、物流、営業が 一体となって取り組むマックス(株)玉村工場



マックス株式会社 玉村工場

群馬県佐波郡玉村町川井 1848

Corporate Profile

1946年に国産初の小型ホッチキスを発売したマックス株は、現在では建築や家具、梱包に使われるネイラ(釘打機)の国内トップメーカーとしても知られている。エレクトロニクス技術にも積極的に取り組み、チェックライター、タイムレコーダなどの事務機を電子化して新たな市場を創造してきた。近年では、複写機内蔵電子ステープラ(オートステープラ)やラベル・サインプリンタ(ビーポップ)といったデジタル時代に対応した製品を開発。
『使う人が満足するモノづくり』にこだわって、社会に役立つソリューションを提供し続けている。群馬県にあるマックス株玉村工場では、オートステープラ、ネイラ、ビーポップなど同社の主力製品の製造を担当。開発から製造、物流まで一貫して、高品質なもののづくりに携わっている。



工場での労災事故をゼロにしたい、それは従業員とその家族を守るためだけでなく、会社を強くする……そのような思いを下地に、マックス株は独自の職場安全活動「SAPLS活動」に取り組んでいる。そのモデルケースとされる玉村工場を取材すると、安全のための要点と予想外のメリットが見えた。

1988年に操業を始めたマックス株玉村工場では、2つの工場棟で同社の主力商品であるオフィス用品とネイラ(釘打機)を製造している。従業員数は開発部門から工場、物流部門などを合わせておよそ650名。製造品目、規模共に同社の中心工場だ。

その玉村工場では、「工場内の労災事故をゼロにしよう」という目標掲げている。これまでも、同工場では法令に則った安全衛生委員会を設け、5S活動(整理、整頓、清掃、清潔、躰)をおこなって安全な労働環境を保つことに努めてきたが、これらの取り組みだけでは、不十分だと感じていた。転倒や接触など、現場の身近な安全性に焦点を絞り、そういった事故が発生する前に危険箇所を発見して予防することができないか、と考えていたのである。

そこでマックス株は、「SAPLS」と名付けた職場安全活動に取り組み始めた。SAPLS活動とは「生産、物流、営業が一体となった安全活動」のこと。自分の持ち場だけでなく、生産部門、物流部門、さらに営業部門まで、社内の全ての部門が一緒になって職場全体を危険予知の観点でチェックし、改善していくという活動だ。日常業務では接することが少ない各部門がお互いの職場を見ることによって、客観的な視点でチェックできる。慣れや個人の癖で回避できていた事故もあぶり出せる。見学は社内に留まらない。危険予知活動に先進的な他社の工場を見学したり、逆に他社や労働基準協会の工場見学を受け入れて改善点の指摘を受けるといった視

野を広げる努力もおこなう。

玉村工場の加藤次長は、「SAPLS活動によって、工場内にどんな危険が潜んでいるかを『可視化』することで予防に繋がる」と話す。つまり、わずかな段差や動線の交差点など、事故の発生要因と場所を把握し、そこに注意を促す表示をして従業員に危険を認識させることが労災事故防止の要点というわけだ。実際に、同社が2018年1月に玉村工場の生産部門と物流部門、東京支店の営業部門を対象にヒヤリハット(事故に至る可能性のあった出来事)のアンケート調査をおこなったところ、350件のヒヤリハット事例が見つかった。

工場内の危ない箇所を 「見える化」で安全、安心にする

それらの取り組みによって発見された危険箇所は、毎月、各部門から担当を集めておこなう「SAPLS会議」に上げられる。どの部門のどの場所かを工場の建物図面にマークし、それをいつどのように対策したかが分かるように事前事後の写真入りで改善状況を貼り出す。つまり、ただ報告して終わりにするのではなく、その危険の芽を完全に摘むまで徹底してチェックするというわけだ。

危険箇所への対応策の多くは、表示物を貼ることによる注意喚起だ。簡単な対処法に思えるが、危険の種類やそれを貼る場所などによって、適した貼り物を作製しなければ予防効果には繋がらない。ただ「注意」とさえ表示していれば事故が防げるわけではないのだ。

玉村工場の中を歩けば、それがよく分かる。貼る場所や表示物の材質、



人と輸送機の交差点所に「一旦停止」を表示。床は人の通路を青、リフトが通る場所をオレンジに塗り分ける。



文字だけの表示だと伝わりにくく読む人も少ない。写真入りすることで危険性が瞬時に理解できる。



シート状でしっかり貼れるビーポップなら、巻き取り式のシートシャッターにも注意表示ができる。



カラーで表示すれば、より伝わりやすい。



消火器の表示は遠くからも分かるように高い位置に。写真入りで種類もすぐ分かる。暗い場所では蓄光シートを利用。



ドアが開閉時の衝突を防ぐため、ドアの軌道を表示。



生産、物流、営業が一緒に工場内の危険箇所をあぶり出すミーティングをおこない、その対策前、対策後の比較、対策場所の地図を工場内に掲示している。



デザインに様々な工夫が凝らされているのだ。例えば、窓がない場所では停電時の暗闇に備えて蓄光シートで表示がおこなわれている。消火器の設置場所を示す表示は遠くからでも分かるように柱の高い位置に。また、金属切粉のコンテナに手を入れるなどの怪我に繋がる行為は文字だけでなくカラー写真で表示している。危険行為を瞬時に理解させるためだ。

そういった表示物の作製には、マックス株の製品であるラベル&サインプリンタ「ビーポップ」シリーズが役立っている。ビーポップなら文字だけでなくカラー写真も美しくプリントでき、蓄光シートや床用保護シートなどのサブライも豊富に揃っている。パソコンでデザインしてオンデマンドでプリントできるため、危険箇所に気が付いたらすぐに対処できる点も事故予防に有効だ。

工場内の安全、安心を目指す SAPLSの課題と未来

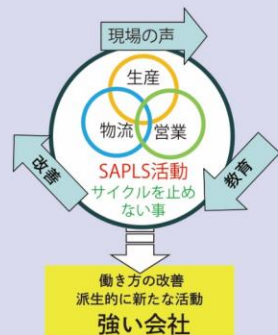
このようなSAPLS活動は、労災事故を予防するだけではない。「労働環境改善や従業員のモチベーションアップにも繋がっている」と、SAPLS活動に携わるメンバーは口を揃える。

「例えば、ヒヤリハットのアンケートの回答の中で、6割のパート従業員が工場内で履く安全靴に対して『躓く』『履き心地が悪いため疲れる』といった意見を持っていることがわかりました。そこで安全靴メーカーに協力を仰ぎ、様々な靴の履き心地をテストした結果、インソールを入れることでそれらを解消することができました」（製造課長）。インソール導入後、パート従業員からは「足が軽くなった」「疲れにくくなった」という意見が寄せられているという。

他にも、転倒事故が起こった現場で、事故原因を特定するためにビデオカメラで作業内容を撮影したところ、そこで動いているロボットハンドから切削油が床に垂れていて、それが原因だと判明。対策としてロボットハンドのプロ

SAPLS 活動とは？

「生産、物流、営業が一体になって取り組む職場の安全活動」のこと。5S活動だけでは現場の安全性に絞った改善に繋がらないため、生産部門、物流部門、さらに営業部門まで、社内の全ての部門が一緒になって職場全体を危険予知の観点でチェックし、改善に取り組む。ヒヤリハットのアンケート調査や、毎月各部門の担当者を集めた SAPLS 会議をおこなって危険箇所をあぶり出して改善を行う。



Safety Activities Production Logistics Sales

意味：生産、物流、営業が一体となった安全活動

『さあ、大切な仲間や家族を守る為に、プラスな活動をするぞ！』

グラムを修正して切削油を垂らさないような動きに変えた。その結果を部署内で共有したところ、自発的にロボットハンドのプログラムを覚える従業員が増えたそうだ。SAPLS活動によって、安全に対する意識が芽生え、従業員自らが自発的に改善に取り組みだしたというわけだ。

このように、SAPLS活動は職場をより安全に改善するだけでなく、労働環境や従業員意識をより良い方向へ変え「強い会社」にする可能性を秘めている。それは企業にとってのメリットだけではない。個々の従業員の健康や家族、仲間を守るために大切な取り組みなのである。

マックス株のSAPLS活動はまだ始まったばかりだが、今後は玉村工場をモデルケースとして、この活動を社内へ、そして社会へと浸透させることを目指している。



本社 〒103-8502 東京都中央区日本橋箱崎町6-6 TEL(03)3669-8108(代)
オフィスプロダクツ ホームページ
<http://www.max-ltd.co.jp/op/>

オフィスプロダクツ営業部 月～金曜日(祝日・当社指定休日を除く)
● 記事の内容についてのお問い合わせ ▶▶▶ TEL 03-3669-8108
お客様相談ダイヤル 月～金曜日(祝日・当社指定休日を除く)
● 製品についてのお問い合わせ ▶▶▶ ☎ 0120-510-200